

仙像を巡る

成田市立図書館資料案内・一一六号

平成二十一年三月・四月

はじめに

遠い日、修学旅行で確かにその仏像を見ているはずだけれど、特別な印象は残っていない。しかし歳を重ねてふたたびその前に立ったとき思わず目頭が熱くなってきた、そんな経験はありませんか。

旅をするのに良い季節になりました。古都の名刹に有名仏を訪ねるもよし、道ばたの野仏に手を合わせるもよし。忙しい時代だからこそ、自分を見つめなおす時間を作りたいものです。

今回は仏像の本の特集です。すべて図書館で所蔵しているものですので、この機会にぜひ手に取っていただければと思います。

仏像巡礼

仏像に魅せられた作家たちの珠玉の仏像巡礼記で、みほとけの世界に触れてみてはいかが。

書名	著者名	出版社	出版年	分類
1 みほとけとの対話	岡部伊都子	淡交社	2005	718
<p>作家岡部伊都子は仏像に関する著作が多いことでも知られる。本書の初版は40年以上前だが薬師寺の月光菩薩像など奈良・京都の有名仏を中心に約100体をみずみずしい感性で紹介する。仏像を物としてではなく人間ごとをあてはめての“みほとけとの対話”で一気に読ませしてくれる。</p>				
2 百寺巡礼 第一巻 奈良	五木寛之	講談社	2003	185.91
<p>私たちのこころのふるさとはどこにあるのか、それを探しに旅に出る。2年間で日本列島の北から南まで百の寺を訪ねる巡礼記。その第一巻が奈良。仏像の紀行文ではないが室生寺金堂をはじめ数々の仏像と五木の出会いがつつられている。第二巻は北陸、三巻は京都1など全10巻。各寺のみどころや仏像をカラー写真で紹介している、ガイド版全10巻もある。</p>				
3 十一面観音巡礼（新装版）	白洲正子	新潮社	2002	718.1
<p>奈良桜井の聖林寺や近江湖北の渡岸寺をはじめ関西から信州まで十一面観音を巡る旅。白洲正子にとって十一面観音は仏像の中でも最も魅力のある存在だった。観音像は知れば知るほど理解を拒絶すると感じる正子だが、最後に再び聖林寺を訪れて見えた観音の慈悲とは何だったのか。</p>				
4 見仏記	みうらじゅん・いとうせいこう	中央公論社	1993	915.6
<p>京都に生まれたみうらじゅんが小学生時代に、仏像見たさに京都・奈良の寺を巡っては作っていた“仏像スクラップブック”。それをいとうせいこうが見た時から二人の「見仏記」は始まった。仏像や仏教の専門知識には門外漢である二人が東北から九州まで全40寺を巡る、珍説・奇説を交えた現代的仏像巡礼記。続篇に海外篇、仏友篇、親孝行篇がある。</p>				
5 古寺巡礼（ワイド版岩波文庫）	和辻哲郎	岩波書店	1991	702.1
<p>本書の初版は大正8年であるが、版を重ね長く読み継がれている仏像巡りの原点とも言える本である。前年の初夏まだ20代の和辻が唐招提寺・法隆寺など大和の古寺に遊んだ印象を若さと情熱を込めて書いている。各寺の堂宇での仏像との出会いを、哲学者らしい博識と豊かな感受性をもって描かれており圧倒される。</p>				

書名	著者名	出版社	出版年	分類
6 大和古寺風物誌	亀井勝一郎	旺文社	1979	915.6
<p>仏像写真でも知られる写真家土門拳が愛読したことも有名な本。法隆寺の百済観音のおおらかな崇高さの前に絶句し立ちすくんだ著者は、それを自らの信仰心の発見としてとらえた。これをきっかけとして、大和の数々の古寺を巡ったときの清新な印象を書きつづっている。</p>				
7 名文で巡る国宝の弥勒菩薩	杉本苑子ほか	青草書房	2007	718.1
8 名文で巡る国宝の十一面観音	白洲正子ほか	青草書房	2007	718.1
9 名文で巡る国宝の阿弥陀如来	白洲正子ほか	青草書房	2007	718.1
10 名文で巡る国宝の観世音菩薩	白洲正子ほか	青草書房	2007	718.1
11 名文で巡る国宝の千手観音	水上勉ほか	青草書房	2007	718.1
12 澁澤龍彦の古寺巡礼	澁澤龍彦・澁澤龍子	平凡社	2006	910.268
13 歓喜する円空	梅原猛	新潮社	2006	712.1
14 西国巡礼	白洲正子	風媒社	1997	186.9
15 寂聴古寺巡礼	瀬戸内寂聴	平凡社	1994	185.91
16 京都古寺	水上勉	立風書房	1994	185.9
17 仏像は語る	西村公朝	新潮社	1990	718
18 石仏の里にて	室生朝子	鎌倉書房	1980	914.6

日本の名仏

美しい日本の仏像たちの肖像。もう会いに行かずにはいられなくなるかも知れません。

書名	著者名	出版社	出版年	分類
1 入江泰吉と歩く大和路仏像巡礼 奈良の寺院・仏像・風景を撮り続ける写真家入江泰吉の名作を厳選した仏像案内。全身像だけでなく合掌する指先の軽み、邪神を追い払う憤怒の相など巧みな構図で魅せる。奈良の代表的な仏像をこの一冊で知ることができる。	入江泰吉ほか	ウェッジ	2007	718
2 仏像（山溪カラー名鑑） 仏像写真の第一人者小川光三が写した仏像写真の集大成である。仏像の持つ造形的な魅力を最大限に引き出した、珠玉の作品が並ぶ。奈良の仏像を中心に寺別・堂別に詳細に解説。数多くの仏像の素晴らしさを体感することができる本。	小川光三ほか	山と溪谷社	2006	718
3 阿修羅 奈良興福寺（魅惑の仏像） 一冊でひとつの仏像を紹介するシリーズの第一巻。仏像の人気投票をすれば必ず上位に来るであろう奈良興福寺の阿修羅像、さまざまな角度からその魅力を伝える。第二巻は京都広隆寺の弥勒菩薩、ほかに法隆寺・釈迦三尊、平等院・阿弥陀如来など全10巻。ほかに1986年から1996年にかけて出版された全28巻のものもある。	小川光三	毎日新聞社	2000	718.7
4 古寺巡礼（愛蔵版） 巨匠土門拳が昭和15年から40年間にわたり撮り続けた古寺巡礼、本書はその愛蔵版。その多くはモノクロの写真なのだが、それぞれ画面に吸い込まれるような迫力がほとばしっている。1980年刊の古寺巡礼(国際版)全5巻もある。	土門拳	小学館	1998	748
5 原寸大日本の仏像 奈良編		講談社	2008	718
6 原寸大日本の仏像 京都編		講談社	2008	718
7 ふるさとの仏像をみる（日本全国の秘仏・古仏・美仏を訪ねて）	内田和浩	世界文化社	2007	718
8 新選仏像の至宝 上・下		毎日新聞社	2006	718
9 地方仏を歩く 全4巻	丸山尚一	日本放送出版協会	2004	718
10 日本の秘仏		平凡社	2002	718
11 日本の仏像100選（いま、魅力の仏像と出会う）		主婦と生活社	2002	718
12 国宝仏を訪ねる（仏のひびき）		講談社	2001	718
13 東寺（生命の宇宙）	立木義浩	集英社	1998	718

仏像を知る

少し前まで仏像に何の興味もなかった、という人にすすめる祈りと安らぎの世界への道標。

書名	著者名	出版社	出版年	分類
1 感じる・調べる・もっと近づく仏像の本 三度の飯より仏像が好きという、若き仏像ナビゲーター“仏像ガール”による入門書。難しいことは抜きにまず仏像をじっくり感じてみようという。イラストや写真を多く使って仏像の世界を分かりやすく案内する。仏像の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたいという著者の心意気が伝わる本。	仏像ガール	山と溪谷社	2008	186.8
2 美仏巡礼 オールカラーの美しい仏像入門書。いま見るべき仏像100を紹介するなど、日本の有名仏像を如来、菩薩などの種類別に広く案内している。また“仏旅”と称して仏像を巡る旅のモデルコースをいくつか取り上げている。楽しみながら読み終えると、早くも仏像通になったように思える。		日経ホーム出版社	2008	718
3 仏像鑑賞ガイド(英訳付)		池田書店	2009	718
4 たのしい仏像(ゼロからわかる仏像入門)	飯泉太子宗	廣済堂あかつき	2008	186.8
5 仏像の見方がすぐわかる本(楽しくておもしろい仏像入門)		主婦と生活社	2008	718
6 面白いほどよくわかる仏像の世界(学校で教えない教科書)	田中義恭	日本文芸社	2008	186.8
7 やさしい仏像(観る作法)		永岡書店	2008	718
8 仏像の楽しみ方完全ガイド		池田書店	2008	718
9 図解仏像のすべて		PHP研究所	2008	186.8
10 よくわかる仏像の見方		JTBパブリッシング	2008	718
11 仏像ロック	みうらじゅん	白夜書房	2007	
12 観音菩薩(神仏のかたち)		学研	2007	718
13 四天王(神仏のかたち)		学研	2007	718
14 不動明王(神仏のかたち)		学研	2007	718
15 釈迦如来(神仏のかたち)		学研	2007	718
16 サライ 2008年9月4日号 特集「仏像の見方」		小学館	2008	雑誌
17 和楽 2006年7月号 特集「仏像に恋して」		小学館	2006	雑誌

野仏・石仏

春。里山にたたずむ野仏、と聞いただけでもうデイパックを背負って出かけたくなりませんか。

書名	著者名	出版社	出版年	分類
1 野仏の見方(歴史がわかる、腑に落ちる)	外山晴彦	小学館	2003	387
路傍に、池のほとりに、野辺に、佇む野仏たちはなぜか私たちを和ませ、心を解放してくれる。広い意味で野仏を取り上げており、道ばたのお地藏様から道祖神、庚申塔や月待塔と呼ばれるものまで幅広く解説する。この季節ぶらりと出かける里道の小さな旅に携えていくのに好適な本。				
2 日本の石仏200選(写真紀行)	中 淳志	東方出版	2001	718.4
東北地方から九州まで全国各地の代表的な石仏200をカラー写真で紹介。多くの時間と労力をかけ著者一人で日本中を撮影し続けて完成した力作。木の文化と言われるわが国に、これほど多様な石造美術が開花していたことを知らせてくれる。石仏を紹介する本の多くが絶版になってしまったなか貴重な存在である。				
3 石仏探訪必携ハンドブック	日本石仏協会	青蛾書房	2007	718.4
4 里山の石仏巡礼	田中英雄	山と溪谷社	2006	718.4
5 石仏を彫る(悠久の祈りを込めて)	長岡和慶	日本教文社	2001	718.4
6 石仏の楽しみ方	日本石仏協会	晶文社出版	1999	718.4
7 房総の石仏100選	房総石仏文化財研究会	たけしま出版	1999	718.4
8 石仏巡り入門	日本石仏協会	大法輪閣	1997	718.4
9 大和路石仏散歩	石浜俊造	主婦と生活社	1997	718.4
10 道祖神散歩	道祖神を歩く会ほか	新潮社	1996	387
11 石仏を歩く(全国の磨崖仏から道祖神まで)		日本交通公社	1994	291.093
12 野の地藏	小島寅雄	朝日新聞社	1990	186.8
13 安曇野と道祖神		文一総合出版	1979	291.5
14 旅の手帖 2006年10月号 特集「野仏紀行」		交通新聞社	2006	雑誌

仏像を彫る

いつかは自分の手で仏の姿を彫ってみたいと考えている、そんなあなたへ。

書名	著者名	出版社	出版年	分類
1 仏のこころを彫る (NHK趣味悠々)	松本明慶	日本放送出版協会	2007	718.3
NHK教育テレビの番組「趣味悠々」のテキスト。仏師松本明慶講師による仏像彫刻講座。彫刻刀に慣れることから始めて、レリーフを彫る、仏頭を彫る、そしてわらべ地蔵を彫るまでを分かりやすく解説。制作過程が美しいカラー写真で詳細に紹介されている。実際に仏像を彫らなくても、仏像とは何かということや仏師の息づかいが伝わる本				
2 滝田栄、仏像を彫る	滝田栄	毎日新聞社	2007	180.4
これは仏像彫刻の技法の本ではない。俳優滝田栄が等身大の不動明王像の制作に挑んだ記録である。俳優として最も多忙な時に母親を失い、母の面影を胸に仏像を彫ってみようと思いついたこと。俳優の道、インドへの旅、木との格闘そして仏陀への夢、それらを通して人としての生き方を語る。				
3 やすらぎの仏像彫刻 続	岩松拾文	日貿出版社	2008	718.3
4 一彫入魂面打ち・仏像彫刻を楽しむ	塩飽晴海	技術評論社	2008	773.4
5 運慶にであう	山本勉	小学館	2208	712.1
6 仏師に聞く仏像彫刻教室	高井琮玄	青幻舎	2007	718.3
7 模刻で学ぶ仏像彫刻	水戸岡伯翠	日貿出版社	2007	718.3
8 はじめての仏像彫刻	水戸川櫻華ほか	創元社	2007	718.3
9 やすらぎの仏像彫刻	岩松拾文	日貿出版社	2005	718.3
10 やさしい仏像の造り方	西村公朝	法蔵館	2003	718.7
11 仏師という生き方	江里康慧	広済堂出版	2001	718.3
12 円空彫のすすめ	三輪年朗	日貿出版社	1998	718.3